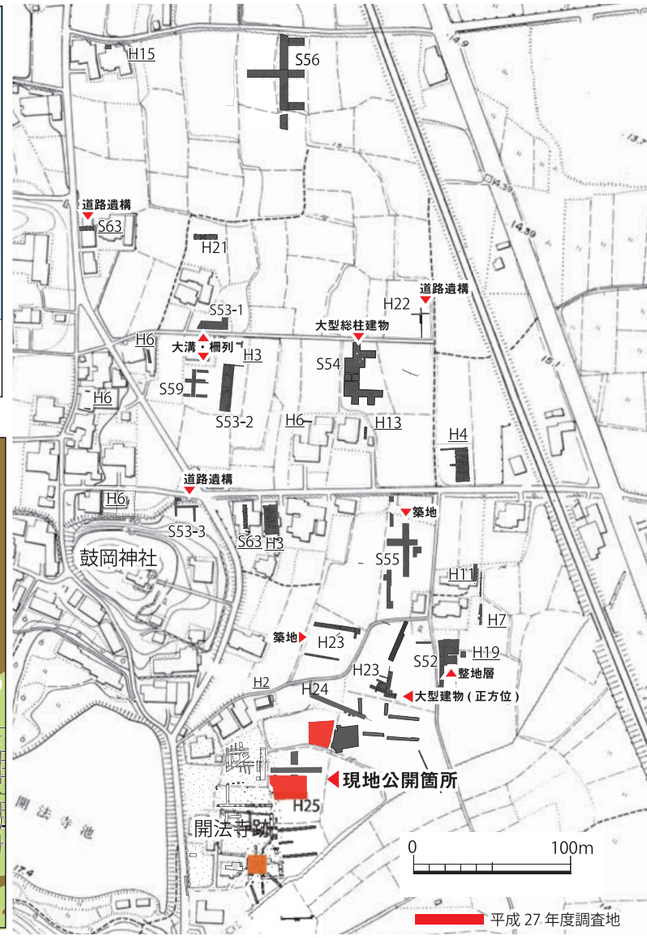
香川県坂出市府中町所在

讃岐国府跡の発掘調査

平成 28 年 2 月 14 日　香川県埋蔵文化財センター

▲ 讃岐国府の位置

▲ 讃岐国府周辺の歴史的環境



▲ 讃岐国府跡における発掘調査地点
坂出市都市計画図1/2500を62%縮小

1　讃岐国府とは

国府とは、奈良時代 (約 1300 年前) の古代国家の成立とともに、地方統治の中心として国ごとに置かれた役所で、現在の都道府県庁のような施設です。讃岐国府は、奈良時代から鎌倉時代 (約 700 年前) にかけて機能し、菅原道真 (845 ～ 903 年) が国府の長官である讃岐守を勤め、崇徳上皇 (1119 ～ 1164) が晩年を過ごしたことでも有名です。

国府は、都や国内の郡衙(ぐんが)との連絡がとれるように交通の要衝に設置される事例が多く、讃岐国府も付近に官道の南海道(なんかいどう)が東西に通じ、瀬戸内海と綾川を介して約 4km で繋がるなど、陸・水上交通の接点となる場所に営まれています。また、周辺に建立された讃岐国分寺(さぬきこくぶんじ)・国分尼寺(こくぶにじ)などとともに、讃岐国の中心となる地域を形成していました。

政庁　せいちょう (国庁　こくちょう)‥‥国府の中でも中枢となる施設で、儀式や政務の場
国衙　こくが‥‥国庁や行政実務行う曹司(ぞうし)などの諸施設群の総称
国府　こくふ‥‥国衙や国司の宿舎である国司館、市などが営まれた地区全域の総称

3　繰り返し設けられた境界

大型建物が建て替えられるのと同じように、建物西側の開法寺伽藍との間の部分では南北方向の柵列や溝が繰り返し設けられています。この位置に執拗なまでに境界を設け続けている点は、今後大型建物の性格を考える上で重要です。

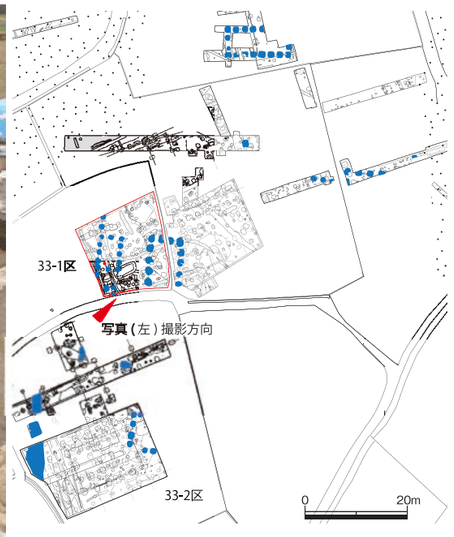
▲ 大型建物と開法寺伽藍を区切る柵列と溝
(奈良～平安時代　約 1,300 ～ 900 年前)

▲ 主要な建物・溝の分布

4　真北を基準とした建物群

これまでの発掘調査で飛鳥時代末から奈良時代の初め頃の建物群の広がりがかなり明らかになっています。これら建物群は真北を基準に規格的に配置される初期の官衙(役所)とみられますが、時代的にみて讃岐国府との関係性をもつかどうかは今後の課題です。

▲ 規則的に配置される建物 (33-1 区　飛鳥時代末～奈良時代初　約 1,300 前)



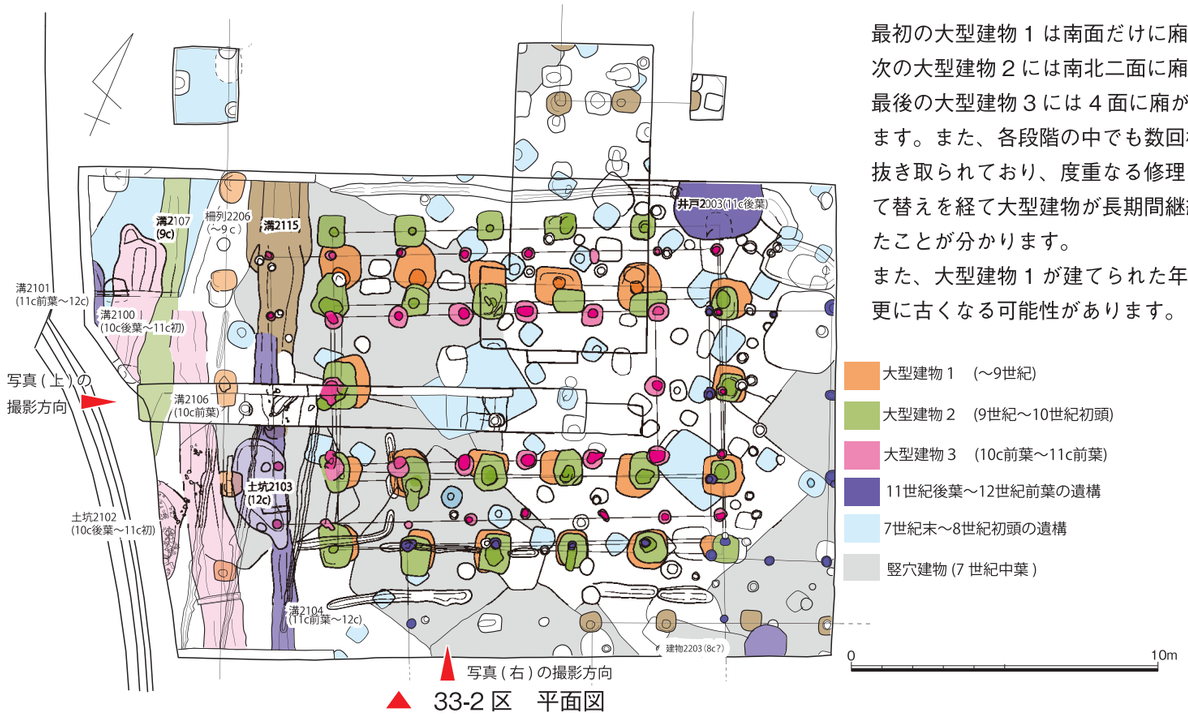
▲ 真北を基準とした建物群の分布状況

讃岐国府跡の発掘調査　　平成 27 年度讃岐国府跡現地説明会資料 2016 年 2 月 14 日発行
編集・発行　香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中町南谷 5001-4　Tel：0877-48-2191　Fax：0877-48-3249
Email：maibun@pref.kagawa.lg.jp　　http：//www.pref.kagawa.lg/maibun/

2　同一地点で建て替えられる廂付きの大型建物

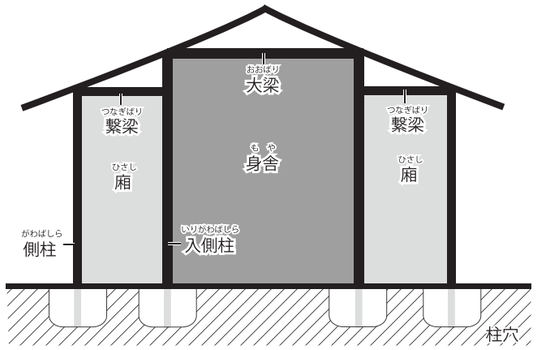
33-2区で確認された大型建物1～3は、奈良時代終わり頃(推定)から平安時代後半までの約200年間、同じ場所で建て替えられています。規模や廂をもつことなどからみて、かなりの格式をもった大型建物であると言え、現在発掘調査を進めている讃岐国府域南部のエリアの特殊性を示していますが、具体的な性格は今後更なる調査・検討が必要です。

▲　大型建物１～３　西から (奈良～平安時代　約 1,300 ～ 1,000 年前)



▲　33-2 区　平面図

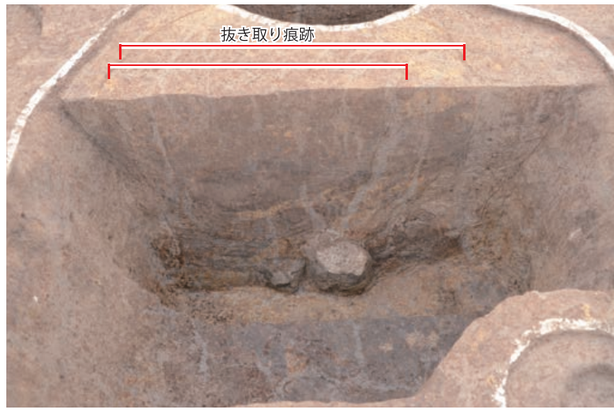
最初の大型建物１は南面だけに廂が、次の大型建物２には南北二面に廂が、最後の大型建物３には４面に廂が付きます。また、各段階の中でも数回柱が抜き取られており、度重なる修理・建て替えを経て大型建物が長期間継続したことが分かります。
また、大型建物１が建てられた年代は更に古くなる可能性があります。



▲　廂付き建物の構造模式図

▲　大型建物２入側柱の柱痕跡
直径約 30 ㎝の大型の柱材が使われたと考えられます

▲　同じ位置で重なり合う大型建物１～３の柱穴



▲　大型建物１入側柱の抜き取り痕跡
修理や建て替えに伴って柱が数回抜き取られています

▲　大型建物１～３　　南から
(奈良～平安時代　約 1,300 ～ 1,000 年前)

大型建物１　約 103 ㎡
大型建物２　約 138 ㎡　※身舎・廂の総床面積
大型建物３　約 123 ㎡